

Title: 「思い出だけ捨てればいいじゃない。」



大谷 可奈子
154センチ、45キ
ロ、A型、おうし
座。
好きなのは、アジ
ア・インド・家族・
ネコ・カレー・すし
です。

● 最近のエントリー

- ☞ 三姉妹の歴史
(2006.11.19)
- ☞ フジサン
(2006.11.12)
- ☞ ニュー・タウン
(2006.11.05)
- ☞ 写真を大切に
(2006.11.03)

● アーカイブ

- ☞ 2011年12月
- ☞ 2011年02月
- ☞ 2010年02月
- ☞ 2010年01月
- ☞ 2009年09月
- ☞ 2009年07月
- ☞ 2009年05月
- ☞ 2009年04月
- ☞ 2008年11月
- ☞ 2008年10月
- ☞ 2008年09月
- ☞ 2008年05月
- ☞ 2008年01月
- ☞ 2007年12月
- ☞ 2007年11月
- ☞ 2007年10月
- ☞ 2007年09月
- ☞ 2007年08月
- ☞ 2007年07月
- ☞ 2007年06月
- ☞ 2007年04月
- ☞ 2007年03月
- ☞ 2007年01月
- ☞ 2006年12月
- ☞ 2006年11月
- ☞ 2006年10月
- ☞ 2006年09月
- ☞ 2006年08月
- ☞ 2006年07月
- ☞ 2006年06月
- ☞ 2006年05月
- ☞ 2006年04月
- ☞ 2006年03月

● 投稿カレンダー

● カテゴリー一覧

● ブックマーク

学校法人 日本写真芸術専門学校
NIPPON PHOTOGRAPHY INSTITUTE

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2006年11月 アーカイブ

06.11.19

三姉妹の歴史

Tweet

いいね! 0

チェック

昨日、古いファイルを見つけた。
私が中学生、姉が高校生くらいのときに描いていた絵がたくさんはさまっていた。



三人とも、絵を描くのが好きで得意だったため、
夜な夜な集まってはくだらぬ絵を夜中まで描いていた。
このときはどうやら、
スラムダンクや幽遊白書のパロディー1コマみたいなのが三人の中で流行っていたようだ。
自分で言うのも何だが、
画力はかなりのものだと思う。



我が家では三人ともよく絵を描いていたので、
紙がもったいないからチラシの裏を活用していた。
たかがチラシの裏の落書きだが、
なぜか母はファイリングして取っておいていた。
何年もたった今こうして見てみると、
内容こそ果てしなくくだらないが、
なかなかの力作揃いである。
そして、こんなものに睡眠時間を削ってまで何時間も費やしていた
過去の自分達に拍手を送りたい。

ちなみに三人の合作マンガもある。
もちろんパロディーである。
私達はパロディーが好きだった。

歳の離れた姉と私にとっては、
マンガはこみゅにけーしょんつーとして大事なものだったに違いない。
そしてさっきも書いたが、
画力はなかなかのものだ。
何かに役立たないものか。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2006.11.19 | [パーマリンク](#) | [トラックバック\(0\)](#)

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2006年11月 アーカイブ

06.11.12

フジサン

Tweet

いいね! 0

チェック

天気が良くて、
仲も良くて、
楽しい一日。
秋のドライブはいいものです◎



カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2006.11.12 | [パーマリンク](#) | [トラックバック\(0\)](#)

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2006年11月 アーカイブ

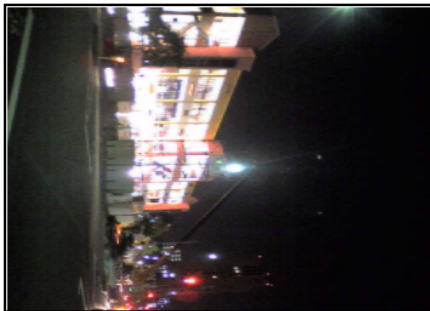
06.11.05

ニュウ・タウン

[Tweet](#)

いいね! 0

チェック



駅前様変わり。
そろそろ、
別の街に引っ越したい。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2006.11.05 | [パーマリンク](#) | [コメント\(1\)](#) | [トラックバック\(0\)](#)

思い出だけ捨てればいいじゃない。 > 2006年11月 アーカイブ

06.11.05

写真を大切にする

[Tweet](#) いいね! 0 チェック

友達がアメリカに行った時の写真を、
とても嬉しそうに見せてくれた。
いわゆる観光の記念写真だった。
その写真は、
使い捨てカメラで撮ったもの。
露出もなにもあったものではないはずなのに、
写真の中の彼女も、
私に誇らしげに写真を見せる彼女も、
とても素敵だった。

私は最近、
こんなふうに誰かに写真を見せたことがあったかなと、
ふと振り返った。

ネパールで出会った二人の男の子に、
私が二人を撮ってプレゼントしようと思った写真が、
違う人の手に渡って行方不明になったとき、
みんな必死になって走り回って探してくれた。

写真なら、見つからなかったらまた焼き増せるのに。

でも私の写真を探してくれて、
嬉しかった。
こんなに一生懸命になってくれるなんて。

写真を撮るのが当たり前になって、
撮らなきゃいけないって、
たくさん撮って、
忙しくなって、
でももっと撮らなきゃいけないって、
また撮って、
一枚一枚の写真への気持ちが薄まってきて、
アメリカの写真を見せてくれた友達や、
ネパールで私の写真を探し回ってくれた子達のように、
写真を大切に思うことを、
忘れていたのかなと思います。

カテゴリ:

post by 大谷 可奈子 | 日時: 2006.11.03 | [パーマリンク](#) | [トピックバック\(0\)](#)